

第 33 回 北海道新篠津高等養護学校 入学式

式 辞

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、さぞかしお喜びのことと存じます。心からお祝い申し上げます。

また、今日の佳き日に、新篠津村長 石 塚 隆 様をはじめとしまして、御来賓の皆様の御臨席を賜り、第 33 回入学式を挙行できますことを心から感謝申し上げます。

新入生の皆さんは、北海道新篠津高等養護学校 第33期生として、ただ今、入学が許可されました。皆さんが、本校への進学を選択・決定していただきましたことに、私は全職員を代表して心より感謝申し上げます。

さて、本校の校訓は、「すすんでやりぬく人」です。これは、「自ら考え決定・行動し、最後まで全うする生徒（人）」を示しており、皆さんにとって身に付けるべき物事へ取り組む姿勢となります。

さらに、身に付けたい力（育成を目指す資質・能力）として、次の3つを設定しています。

- ① 主体的な対話と探究により学びを深め広める生徒（人）【深い学び】
- ② 自らを律し、感謝と感動する心もち、他者と協働できる生徒（人）【豊かな心】
- ③ 学び働き生きるために健全な心と体をもった生徒（人）【つよい体】

これらは、3年間の高校生活だけで身につく力ではありません。卒業してからも、生涯にわたってコツコツと積み重ねて身に付けていくべき力です。そして、学校教育目標であります「豊か

な心とつよい体をもって「たくましく自立」することを目指してほしいと願います。

在学中は、卒業後に社会で生活するということを強く意識して、一人一人が目標をもって勉学に励み、志高く、充実した学校生活を過ごしてください。

また、新篠津村の皆様からは、いろいろな学習に開校当初より御支援をいただいておりますので、常に感謝の気持ちをもって学んでください。

私は、原則的には学校は楽しいところであるべきだと考えます。しかし、同じ楽しいところでも遊園地で遊ぶこととは違います。遊園地では、その時間だけ楽しく遊べば幸せであり、自分自身の努力は必要ありませんが、日々の学校生活を充実させるためには、自分自身の努力も必要となります。その時々楽しさも喜びも、つらさも悲しさも悔しさも、全て「学ぶこと」となり社会に出て地域で「働くこと」、「生きること」のためにつながっているのです。

皆さんの中には、「自分にはできないかもしれない。自信がないな。」と思う人もいるかもしれませんが、一人ではできないかもしれませんが、一緒に入学した仲間、そして先生方と「共に分かり合い、感じ合い、支え合う」関係性を大切にすることにより、決して一人ではないことを覚えておいてください。昨日の第1学期始業式では2・3年生の先輩たちへも、「① 自分の入学したときを思い出して、新入生をやさしい心で迎えましょう!」、「② 後輩のよき手本となるような心構えと行動をしましょう!」とお願いしておきましたので、安心して先輩たちを頼ってください。

さて、保護者の皆様、今日からお子様を3年間、本校でお預かりし、立派な社会人として社会に送り出せるように、我々職員一同がチームとして全力で指導に取り組めます。その間、保護者の

皆様と我々職員は、家庭教育と学校教育においてお子様の教育を分担して責任を担うこととなります。

そのためには、保護者の皆様と我々職員との信頼関係を基盤とした連携がとても大切になります。本校の教育活動と指導についての御理解と御協力をお願いいたします。些細なことでもよろしいですから、何かございましたら御遠慮なく学校に御連絡や御相談をいただきたいと思います。我々職員一同、誠心誠意、懇切丁寧に対応させていただきます。

結びになりますが、第33期生の今後の学校生活が充実すること、そして、それが卒業後の社会生活へつながり、全員が笑顔で3年後に卒業できることを願って式辞といたします。

令和7年4月9日

北海道新篠津高等養護学校

校長 立 田 俊 治